

1 **トラック1「催淫の粘液ぶっかけ」**

2 「聖結晶姫ミツキ。催淫触手の罠」

3 「やっと見つけたわ、レギオンの改造人間！」

4 「まさか、地下水道に潜んでいたなんて……道理で中々見つからないわけだ」

5 「でも、この私が来たからにはあなたの悪事もこれまでよ！」

6 (酷いものね……これは改造人間というよりも、不気味な化け物。巨大なミズを球
7 状に編み込んだような触手の塊だわ)

8 (欲望以外の感情を失い、人々を苦しめる忌まわしき存在……断じて野放しにはで
9 きないわ！)

10 「そう……どうやら私をただのか弱い女の子だと思っているのね」

11 「でも残念。あなたの思い通りにはそう簡単に」

12 「キヤツ!?」

13 (危なかったわ。あの触手、先端から特殊な粘液を噴射できるのね。注意しないと)

14 「くっ、また！」

15 (この粘液、意外に射程距離があるのね……これじゃ、近づくことができないわ)

16 (やはり、あいつを倒すには私に宿る聖結晶の力を解放し、変身するしかないわね)

17 「いくわよ！ お願い聖結晶、私に力を貸して……チェンジ・ストラクチャー！」

18 「変身完了！ 聖結晶姫ミツキ、ここに降臨！」

19 「さあ、観念しなさい！ 変身した私の前ではあなたなんて敵じゃないわ！」

20 「……なんて言っても、言葉は通じないのよね。だから、力の差を直接教えてあげ
21 る！」

22 「ガントレット！ モードセイバー！」

23 「悪を滅する光の刃を受けてみなさい！ たあああああああ！」

24 「粘液で反撃しても無駄よ！ 変身した私には、そんなもの当たらないわ！ やああ
25 ああつつ！」

26 (くっ、浅かった……表面の粘液でブレードを滑らされてしまったわ)

27 「ふん！ だから、そんな攻撃通用しないと言っているでしょ！」

28 「今度は外さないわ、観念しなさい！ やあああああああ！」

29 「よし！ これでトドメよ」

30 「ひやああ！ えっ？ あっ、な、なに？」

31 (し、しまった！ 敵は1体だけじゃなかったというの……2, 3, 4、ご、5体も！)

32 (しかも……囮まれてしまっているわ。最悪ね)

33 (敵のアジトを見つけた気になっていたけれど、どうやら、私は誘い込まれていたよう
34 ね)

35 (狭い地下水道で、この数を同時に相手するのは辛いわ)

36 (なんとかしてこの包囲網から脱出しないと……大丈夫、落ち着くのよ)

1 (聖結晶は私の心に反応してエネルギーを生み出す結晶体。どんな時でも諦めない
2 心が力になるのだから)
3 「くっ、そう簡単に逃がしてくれないってことかしら」
4 「だけど、もう同じ手は通用しないわよ。不意打ちでなければ、こんな攻撃」
5 「ふあああああつ！」
6 (ど、どうなっているの!?)
7 (さっき粘液をかけられたところが急にムズムズして……熱く、なっているわ)
8 「つうう!? えっ? ひやあああああ！」
9 (熱いだけじゃないわ……肌がすごく敏感になってる)
10 (いつもならボディスーツの密着なんて気にならないのに……今はスペスペの生地
11 が擦れたくらいで……か、感じちゃうわ)
12 (な、なによ、これ……まるで全身を、あんつ!? 撫でられてるみたい)
13 (いけない！ これ以上、この粘液を浴びるわけにはいかないわ)
14 「くつう……はあはあ……ふあつ!? はあー、はあー、ううつ、くつ……」
15 (そんな……身体がドンドン火照って、よけると酷くなっていく……ふあつああ！)
16 (そうか……この粘液は媚薬なんだわ。それも、スーツの防御機能を上回るほど強
17 力な……)
18 「こ、この、卑怯よ！ あんつ!? こんな、女性を辱めるような責め方するなんて……」
19 「あっ、し、しまっ!? きやあああああああああ！」
20 (また、粘液が……それも胸にかけられるなんて)
21 「はああー、はあー、ううう……つ、うつあ、ああああ～～」
22 (そんな、胸はただでさえ感じやすいのに……媚薬が染みこんで、もっと敏感になっ
23 てしまつたわ)
24 (ああっ……スーツの締め付けだけで、おっぱいが気持ち良くなっちゃってる)
25 (乳首もたって、痺れちゃって……これじゃ、敵の攻撃をかわせないわ)
26 「し、しまっ!? あっくうううう」
27 「触手が手足に絡みついで……早く、振りほどかないと」
28 「きやああああああああああああ！ や、やめなさい！ そんなものを、かけるなあああ～
29 ～！」
30 「感じちゃううう！ 力が抜けてえ、触手が振りほどけないいいいい！」
31 (まずいわ！ 胸だけじゃない……身体中に粘液をかけられて……)
32 (これじゃ、敏感になりすぎて敵の思うつぼだわ……)
33 (完全に動けなくなる前に、反撃しないと……聖結晶に意識を集中してエネルギー
34 を高めるのよ)
35 「くつ、うううう！ 負けない……私はこのくらいで負けたりなんて……しないわ！」
36 「よし！ このエネルギーがあれば……ガントレット！ モード」

1 「きやああああああああ！ うつ、あああ……し、しまった……せ、聖結晶を狙われ
2 てしまうなんて……」
3 (聖結晶は私の力の源。ここを攻撃されると、体がバラバラになったみたいだわ。エネ
4 ルギーも生み出せなくなってしまう)
5 「いぎゅつあああ！ かはっ！ うつああ、あああ……はあ、はあ……」
6 (また触手で直接聖結晶を攻撃してきた……まずい、聖結晶が私の弱点だと、バレ
7 てしまったわ)
8 「ぎやあああああああ！ うう、ああああ……や、やめなさい……」
9 「うぎやああああ！ あつああああ！ きやあああああ！ あう、あう……やめな、ひ
10 ぎやああああああああああ！」
11 「ひぎいいいぐうううううう！ や、やめてえええ！ そんなに殴られたら、聖結晶が壊れて
12 しまうわ」
13 「いやあああああ！ やめて！ 聖結晶をこれ以上、攻撃しないでえええ！」
14 「ンンンンツツツううううう！ あつうがあああ……うつ、ああああ～～」
15 「うう……あつ……お願い……やめ、て……」

16

17 トック2「恥辱の触手拘束愛撫」

18 「はああ一一、はああ一一……うくううう、くう……くつ、ああああ……」
19 (やっと、聖結晶への攻撃が止まったわ。でも、ダメージが大きすぎて力が入らな
20 い……)
21 (触手で手足を拘束されていなかったら、立っていられないなんて……情けないわ)
22 「くつ、今度は私になにをするつもりなのよ」
23 「そんな手足だけじゃなくて、胸にまで触手が絡みついて!？」
24 「こ、こいつ……私の胸から離れなさい！ あまり調子に乗っていると、ひやあああ
25 ん！」
26 「こ、この……やめろって、言って……あつ、アアアンッ！」
27 (だ、ダメ……聖結晶の出力が下がって、媚薬がさらに効いてる……力が全然入
28 らないわ)
29 (せめて、この媚薬だけでもなんとかできれば、まだ活路はあるわ)
30 (賭けになってしまふけれど、残りのエネルギーを使えば媚薬を中和できるはずよ。だ
31 から、今は恥ずかしいのに耐えて、中和に集中しないと)
32 「くふう、うう、アッ！ 我慢……我慢よ、私は快樂なんかに屈したりしな、へつ!？」
33 「ひやあ、ふあああああああああ！」
34 (この触手のヌルヌル、想像以上に厄介だわ。撫でられただけでゾクゾクして、おっぱ
35 いが気持ち良くなっちゃう)
36 (しかも、知能が低いくせに、なんて繊細なさわり方をしてくるの。こいつ女性のよろこ

1 ばせ方を熟知しているわ)
2 「ふああああああ！ はあ、はあ、胸え、だめえ……こんなの卑怯よおおおお！」
3 (ギュウ、ギュウって根元から絞り上げられる感じが、乱暴にされているのに気持ちい
4 いなんて……)
5 (こんなに胸が火照っちゃたら、乳首が立っちゃうわ。そしたらもっと、敏感になっちゃ
6 うのに……)
7 「ひっ、くうううううう！ だから、それダメだって……」
8 「はひいいい！ 乳首が……感じちゃって、乳首が立っちゃうううう」
9 (胸の先が痛いくらい硬くなってる……こんな状態の乳首をいじられたら、どうなって
10 しまうの？ 乳首は弱いのに、我慢なんて……)
11 「あっ、ダメ！ そんな先っぽまで……乳首はいじらな!? ひやあああああああ！」
12 (やっぱり、乳首にも触手、きちゃたわ。しかも吸盤みたいに吸い付いてきてる)
13 (生温かくて、唇で包み込まれているみたい……こんなので吸われちゃったら、感じ
14 ちゃうに決まってるじゃない！)
15 「アンッ！ アッ、アッ、吸いながら同時に揉んでくるの!? ひぎいい！ ふああああ
16 あ！」
17 (反則！ それは反則よ！ ギュウギュウ絞られる圧迫感と吸い上げられる気持ち良
18 さが混ざり合って、胸がトロトロに溶けちゃいそう！)
19 「んんつああああ！ 吸うの激しいいいい！ そんなに吸ったっておっぱいなんて出ない
20 わよ！ いい加減にしなさいよおおお～～！」
21 (この触手、どれだけ責め手を持っているの!? 温かいだけじゃなくて、歯みたいに硬
22 い部分で噛むこともできるなんて……)
23 (ああっ！ 今度は舐められているみたいな感触がきたわ……くうう、媚薬の中和
24 が遅くなっちゃう……)
25 「ひくううううう！ ち、乳首は、もう許してええ……」
26 (おっぱい……おかしななつちゃう……気持ちいいの覚えさせられちゃう……)
27 (あつ!? べ、別の触手がお尻に貼り付いて……やっぱり、ダメ。媚薬を浴びちゃって
28 るからお尻も胸と同じくらい感じてしまうわ)
29 「ううう、くうううう！ お、お尻、撫でないでよ！ ヌルヌルして気持ち悪いのよ……
30 ふうああっ！ はふううん！」
31 (そんな!? 触手がスーツの中に潜り込もうとしている……撫でるだけじゃなくて、お
32 尻の穴に触手が入ろうとしているの!?)
33 (まずい……聖結晶の力を中和に回しているから、スーツが脆くなってしまっている
34 わ！ お尻に触手、いれられちゃう！)
35 「ふーふーふー」
36 「させない……そんなこと絶対。これ以上犯されてなるものですか！」

1 「私の武器はどんな時でも諦めない不屈の心！ こんなピンチくらい乗り越えて、ひや
2 あああ!?」
3 「ッ、ひくうううう！ やつ、あああ、胸の愛撫のせいで、思うように力が入らない……
4 そんな、ダメっ……お尻に触手があああ入っちゃう！」
5 「くひいいいいいいい！ お、おしりいがああああ！」
6 「うつあああ……耐えられなかつたわ……スーツ、破られちゃつた……」
7 (お尻の穴、限界まで広げられちゃつてるなんて……)
8 (なんて太さなの……腸壁にへばりついてきて少し動かされただけでも、お腹の中
9 を引っ張られているみたいだわ)
10 「ひぐうう！ ううううう！ ああ、動かないで……中を搔き回さないでえ～」
11 (ヌルヌルしているだけじゃない。触手の表面がデコボコしていて、突起が感じちゃう
12 場所に当たつてくるわ！)
13 (擦られるとお尻の中がドンドン熱くなつて、気持ちいいの止まらなくなつてしまふ)
14 「くうううう、ふ——、ふ——……ひゃん!?!」
15 (やっぱり、ダメだわ。お腹に力を入れようとすると、触手を余計に感じてしまつて疼き
16 が大きくなっちゃう)
17 (膝の力が抜けて……触手に拘束されていなかつたら立つていられないなんて屈辱
18 よ)
19 「はひいいい！ う、うそ!? 今度は捻るの！ そ、それ、ダメよ……くひいい
20 い、んんひいいい！」
21 「変な声出ちゃう……恥ずかしい声が止まらなくなっちゃうわあ！」
22 (なんのよ、こいつ！ 知能は低いはずなのに、なんでこんなに上手いのよ！)
23 (強弱の付け方も絶妙で1番感じちゃうポイントを1番欲しいタイミングでいじつてくる
24 わ)
25 「へきやああああああ！ あ、熱いいいいい！ お尻が溶けるうううう！」
26 (お尻の中に何か出された……ベトベトして、熱くて……いったい何を注入された
27 の？)
28 「はあ、はあ、はあ……ひいい!? あつあつあつ、そんな、ま、まさか……」
29 「へびやああああああああああああああああああ！」
30 (お尻の感度が信じられないくらい上がつて。さっき注がれた粘液って、身体にかけ
31 られたのと同じ媚薬だわ!?)
32 (粘膜から直接吸收しちゃつたから、効き目もさつきの比じゃない。私のお尻の穴、性
33 感帯にされちゃつたわ！)
34 「お、お尻いいい、お尻もうダメ！ グチョグチョしないで、搔き回さないで！」
35 「そんな激しくされたら、感じすぎておかしくなっちゃうのおおおお！」
36

1 **トラック3「屈辱の膣内射精絶頂」**

2 「くひいいい！ ふあああ、ああああ！」
3 「胸も、お尻も、おかしくなるううう～～、はへえ、うつああああ～～」
4 （媚薬の中和はまだ終わらないの？ このままじゃ、中和よりも先に私の方が限界を
5 むかえてしまうわ……お願い、聖結晶……早く、中和を……）
6 （あっ、ショーツが破れて!? エネルギー不足でコスチュームも限界なんだわ）
7 （えつ!? ま、待って！ まさかアソコにまで触手を入れる気なの？ そんなことまでさ
8 れたら、私もう耐えられないわ）
9 「いや！ やめなさい！ そこは女の子の1番大切な場所なのよ。そんな汚い触手を
10 入れて良い場所じゃないんだから！」
11 「くひやあああああ！ ダメだって言ってるでしょ！ 先っぽ押しつけて、グリグリしな
12 いで。それ以上力を込められたら、は、入っちゃう！」
13 （ダメよ、ミツキ！ 弱気になっちゃ。これ以上心の力が弱くなったら、聖結晶の力まで
14 弱くなっちゃう）
15 （聖結晶の力は私の心が影響するんですもの。気を強くもたないと負けてしまうわ）
16 「そうよ、負けない……こんなピンチで私は、ひいいいい!?」
17 「い、いやああああああああああ！ しょ、触手が入って……私のアソコに入っちゃってる
18 ううううう！」
19 （いやあ、入っちゃってる……しかも、これ、他の触手よりすごく太くて硬いわ）
20 （こんなたくましいのでアソコ犯されちゃったら、わたし、どうなってしまうの？）
21 「ガッ！ うつ、あああ……突き上げ、すごい……奥にガンガン当たって、衝撃がお
22 腹全部に響いてくるうううう！」
23 （身体が火照りきっちゃって、乱暴にされているのに感じちゃう……奥が、子宮が、
24 潰れてキュンキュンしちゃわ）
25 （こんな嫌なのに……屈辱なのに……気持ちいいの止まらないのおおお）
26 「ひぎゅううう、くつはああああ、ああああん！ う、ウソでしょ!?」
27 「おっぱいイジメられながらアソコ突かれると、もっと感じちゃうううう！」
28 「両方の快感が混ざり合ってドンドンおかしくなっちゃうわああ！」
29 （ズルいわ、こんな弱いところばかり同時に責めて……どっちを我慢すればいいの
30 かわからなくなる）
31 （ううん……もう、どうやって耐えていたのか、思い出せなくなってきたら）
32 「あひいいいいい！ そ、それ本当にだめえええ！」
33 「お尻とアソコ同時に突き上げないで！ お腹の中が潰されて、苦しいのに、んつああ
34 ああ！ 子宮で感じちゃうのおおおおお！」
35 （こんなに敏感になった身体じゃ、アソコ責められるだけでも我慢できないのに……）
36 （おっぱいとお尻まで一緒にされたら、わたし、何もできなくなっちゃううう）

1 (つやん！ くひいいいいい！ 触手のデコボコが粘膜引っ張ってくるうう！)
2 (ジクジクしたの消えてくれなくて、もっと欲しいってピクピクしちゃってるわ！)
3 (身体が触手に犯されるよろこびを覚えちゃう……わたし、触手奴隸にされちゃううう
4 う！)
5 「かひいいい、ああん！ む、むねえええ！ はひいいい、おひりいいい」
6 「ふあああああああ！ あしょこもおおおお、全部うう、快樂に負けちゃううう」
7 (身体が快樂に流れちゃって、聖結晶の力弱くなっちゃってる……中和が全然間
8 に合わないわ)
9 「ひいいいっ、いいいっ！ 太いいい、硬いいい！ アッ、アッ、アッ、アッ、アンッ！」
10 (そんなあ、触手がさらに大きくなってる。お腹の中、もうパンパンなのに、これ以上刺
11 激強くされたら……もう……もう、わたし……っうううううう！)
12 (だめええええ！ もう、耐えられない！ 負けたくないのに、屈服したくないのに……
13 わたし、触手に……触手なんかにいいい)
14 「イ、イクッ……もうイク！ エッチな穴、ズボズボされて、わたし、イッちゃううう
15 うう！」
16 「ひぐううう！ 潮吹いちゃってる……イクの気持ちよすぎて、ブシャブシャ出ちゃう
17 うう！」
18 「これダメなお！ 頭の中真っ白になって、何も考えられなくなる。快樂に支配され
19 ちゃうのおおおお！」
20 「い、いやっ……いやあああああつ！ 出されてるうう、粘液、中に出されちゃってるう
21 う！」
22 (この媚薬のせいでメロメロになっちゃったのに……中出しまでされたら耐えられる
23 わけない)
24 (それに私、イッた直後が1番敏感なのに!?)
25 「はっひいいい！ イクラうう！ ドロドロ粘液注がれて、またイッちゃううう！」
26 「も、もう、出さないでえ……子宮まで蕩けちゃって、イクの止まらなくなっちゃう
27 わ……ひぐううう！ だめえええ、またイクううううう！」
28 (身体の痙攣が止まらないわ……さっきからイキっぱなしで、本当におかしくな
29 る……)
30 「お、お願ひ……許してえ……これ以上はもう、うふうううう！」
31 「おええええ、むぐううううう！ うふっ、もごおおおおおお！」
32 (触手が口の中にまで！ いやっ、舌を絡めないで……)
33 (イキまくりで何をされても感じちゃうのに、キスなんかされたらメロメロになってしま
34 うわ)
35 「はむううう！ むぐぐっ、んちゅううう、へつああああああ！」
36 (お口しごかれるの、しゅごいいい！ キスでもイッちゃう……触手キスでイカされち

1 やってる……わたし、なんて惨めなの……)
2 (でも、気持ちいいのに逆らえない……媚薬で完全に身体がおかしくなっちゃった
3 わ……)
4 「もごおおおおおおお！ もがああああ、むうううううう！」
5 (粘液、流れ込んでくる！ 苦くて、ドロドロしたの、飲まされちゃってるうう～～！)
6 (媚薬はもう嫌なのに……だめえ、やっぱり感じちゃうわ……)
7 (もう、イクの止まらない……アクメしたまま、終わらないのおおおお！)
8 「うふうううう！ おぼおおおおお！ もごおおおお！」
9 (頭が真っ白になって……なにも考えられないわ……)
10 (聖結晶をコントロールできない……もう、中和……できない……)
11 「おえっ！ うええええええ！ 媚薬、もう……いやあああ～～」
12 「や、やめれええ……おれかい、らかああ～～……あうんつああああ！」
13

14 トラック4「絶望の強制変身解除」

15 「うつぶう……はへええ、うつあ……ぜえ、ぜえ、ぜえ……」
16 (私はいったいどれだけイカされたの……ダメだわ、全然思い出せない)
17 (そもそも、ずっと犯され続けて、もう時間の感覚が麻痺してる)
18 (体が鉛のように重い……戦うどころか、指1本動かすのがやっとだわ)
19 「うっ……あああ……おえっ！ ケホッ、ケホッ！ ううう……」
20 (拘束が解けたけれど……ダメ、やっぱり立てない……)
21 (こいつらも、わたしがもう動けないとわかっていて、拘束を解いたんだわ)
22 (惨めすぎるわ……でも、この格好じゃ言い訳もできない……あんなにイカされて、
23 無様よね……)
24 (私のことを嘲り笑っているのかしら……)
25 (そうよね……散々痴態を晒した私なんて、触手に屈服した雌奴隸くらいにしか考え
26 られないわよね)
27 (ううう……私はもう戦えないというのに、こいつら、まだ何かするつもりなの？)
28 (触手の先端から針のようなものが飛び出したわ……ま、まさかあの針で私を!?)
29 「ぎやああああああああ！ あ、足がああああ！ 針が太股に刺さって、い、痛いいい
30 い！」
31 (エネルギーが低下して、スーツの防御力がゼロになってしまったわ)
32 「へげえええええ！ あっーーあっーーあっーー！ 針が、また……もうやめ、きやあ
33 あああああ！」
34 (太股だけじゃない。腕にもお腹にも針が刺さって……私は串刺しにされるの？)
35 (今度はなに？ 針を刺した触手が、ごきゅ、ごきゅ、って動いてる。まるでなにかを吸
36 い上げているみたい)

1 「あっ、あっ、あっ、うう……えつ？ ちからが、ぬけて……ま、まさか!?」
2 「くひいいいい！ やっぱり、そうだわ！ こいつら、私のエネルギーを吸い上げて
3 る……聖結晶の力が、無くなっていくううう～～」
4 「やめてええ、お願ひ！ もう、私のエネルギーは尽きかけているの。なのに、エナジ
5 ードレインなんてされたら、空っぽになてしまうわ……」
6 「苦しいいいいい！ え、エネルギーがああああ！ あっ、ううう、いっぺんに吸わない
7 でええ～～」
8 「んぎいいいい！ ひぎいいいい！ ハア、ハア、ハア……あうううう～～」
9 (えつ？ あっ！ そ、そんな……アーマーが消えてしまったわ。エネルギーを失い
10 すぎて変身が解け始める)
11 「お願ひ！ お願ひだから、もうやめてえええ！ これ以上吸われたら、本当にエネル
12 ギーがなくなってしまう……変身が解けてしまうわ」
13 「らめえ、らめえええ！ エネルギー吸うの、もう、らめええええ！」
14 (エネルギーを失った分だけ、抵抗力が落ちてく……エナジードレインを止められな
15 いわ)
16 (リボンも消えてしまったわ……髪がほどけて、聖結晶のトレードマークであるポニ
17 一テールまで崩れちゃった)
18 (わたし、負けるの？ こんな触手の化け物に屈服させられてしまうの？ いや……
19 負けたくない……負けたくないわ)
20 「ふああああ～～、いやああ～～……負けたくない、負けたくない、負けたく」
21 「ふぎやああああああああああああああああ！ ぞんなあああああ！」
22 「やべでええええ！ 聖結晶を攻撃しないで！ ぞんなごどざれだらあああ、もう、わだし
23 いいいい！」
24 「だめえええええ！ もう、わだし、だめえええええ！ へ、変身、解けちゃううううう！ は
25 ぎいいいいいい！」
26 「……あっ、うう……ブロンドが変身前の黒髪に戻ってしまった……スーツもなく
27 なって……変身が、完全に解けてしまったわ……」
28 (私は……聖結晶姫ミツキは負けたのね。もう、私の勝ち目は……ゼロだわ)
29 (針が抜かれた……そうよね、もう私はエネルギーの搾りカスも同然。こいつらにと
30 って、脅威にはなりえないわ)
31 「で、でも……それでも私は……最後まで、絶対に諦めない！」
32 「ハア、ハア、ハア……何度も倒れても、立ち上がるわ。不屈の闘志……これが私
33 の……聖結晶姫ミツキの最後の武器なのだから！」
34 「はあー、はあー、うくううう！」
35 (体が重い……膝が震える……なんとか立てたけど、これが限界だわ。でも、これ

1 でいい。例え負けたとしても、私は最後まで戦ったのだから)
2 (な、なに？ あいつら急に苦しみだしたわ。体が青色に発光して、粒子のようなもの
3 が漏れ始めてる)
4 (今度は光の粒子が一気に噴き出した。これは……聖結晶のエネルギー粒子だ
5 わ！)
6 「エネルギーが戻ってきたわ！ これなら、もう一度変身できる！」
7 「お願い聖結晶！ 私に力を貸して……チェンジ・ストラクチャー！」
8 「変身完了！ 聖結晶姫ミツキ、ここに降臨！」
9 「どうやら、お前達では聖結晶のエネルギーを吸収しきれなかったようね。負荷がか
10 りすぎて拒絶反応を起こして、エネルギー粒子を放出したというところかしら」
11 「媚薬による火照りも回復済みよ！ もう、お前達なんかに負けないわ！」
12 「覚えておきなさい、化け物共！ この心が折れない限り、私は何度でも蘇る！」
13 「くらいなさい！ ガントレット！ モードライトニング！」
14 「ハア、ハア、ハア！ ……ふうー、危なかったわ」
15 「もし敵が途中からがエネルギーを吸わず、私を犯し続けていたら、さすがに耐えら
16 れなかつたわ」
17 「でも、勝利の女神は私に微笑んでくれた。きっと最後まで諦めない心が逆転につな
18 がつたんだわ」
19 「今日も無事、ひとつの悪を滅ぼせたけど、これが最後というわけではないわ」
20 「きっと、これからも過酷な戦いは続く。でも、私はどんなピンチでも諦めない！」
21 「それが私の……聖結晶姫ミツキの強さなのだから！」
22
23 (了)